

教室の窓から

勇氣と感動

昨年3月に開催されたWBC (ワールドベースボールクラシック) で3大会ぶり3度目となる世界一に輝いた侍ジャパン。日本中に勇氣と感動を与えてくれました。チームを率いた名将・栗山英樹監督の悲願達成までの舞台裏を読んだり、聞いたのでそれを紹介します。

歴代最強ドリームチーム 誕生の裏

○栗山監督は、ダルビッシュ有、大谷、鈴木選手などメジャーリーグで活躍している選手も含めて自分の思いを一人ひとりに自分の真心を直接伝えたそうです。「信じる」を自問して最終選考の時期まで本人と連絡を取りませんでした。○スポーツもグローバルに世界を繋いでいます。ラグビーにヒントを

得て外国籍の選手を入れることによつて国籍が違つても同じ仲間だということ子どもに伝えたかった。ヌートバー選手は「たつちやん」と呼ばれていました。

○自分の思いを30人全員一人ひとりに「墨書」(墨をつけた筆)で手紙を書きました。書いた中身は「あなたは日本代表チームの一員ではなく、あなたが日本代表チーム」と。それで普通はキャプテンを一人指名をしますが今回は全員がキャプテン。ダルビッシュ有選手が「全員キャプテンOKです。あれ、いいですね。しっかりやれます」と言つたそうです。作戦も監督が知らないうちに選手同士が「おまえの足で決まるぞ」「選手が選手の状態をみている」などの姿が見られたそうです。

理事 児玉元治 (韜光)

○ある本との出逢い 森信三先生の「修身教授録」、藤尾秀昭さんの「小さな人生論」で人間学を学びました。

○リーダーとして大切な心がけと自戒 監督の仕事は「決めること」「人がやりたがらない嫌なことを率先してやる」

○一流と二流の差 一流になる選手は「できるか、できないか」ではなく「やるか、やらないか」やってみてできなくても挑戦すれば自分のレベルが高まります。

栗山監督の思いを読んでみました。日頃から並々ならぬ勉強をしてきたからこそ世界一になり、感動と勇氣を与えられることができたと思えました。

(月刊誌「致知」10月号から一部引用しました)